

浅井歴史民俗資料館

第18回 終戦記念展

手紙に刻まれた 戦争の記憶

令和2年 7月28日 火 ▶ 9月6日 日

午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

会場／浅井歴史民俗資料館1階展示室



「手紙に刻まれた戦争の記憶」

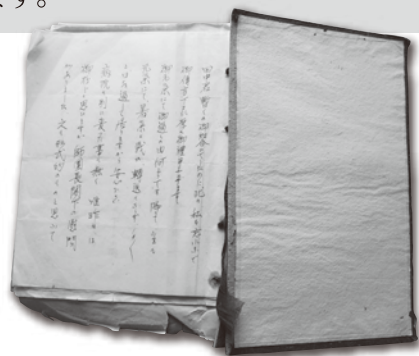
今年、戦後 75 年の節目を迎えます。次第に戦争体験者も少なくなり、戦争への意識が薄れつつありますが、戦時中に交わされた手紙は、時を越えて現代に生きる私たちに平和の尊さを教えてくれます。戦時中、出征などで離れ離れになった家族をつなぐ唯一の手段となったのが手紙でした。戦地と故郷との間で交わされた手紙（軍事郵便）には検閲があったため、全てが自由に書けるものではありませんでしたが、その文面には家族への深い愛情が映し出されています。

戦後 75 年のこの機会に、市内に残された資料により当時の状況や人々の想いを紹介します。

主な展示品

負傷した兵士への慰問の手紙

田中行三さん（長浜市内保町出身）は、昭和12年（1937）に召集され、同13年（1938）中国宿州での戦闘にて負傷。野戦病院や敦賀陸軍病院での療養は1年にも及びました。入院中に家族や親せきとの間で交わされた手紙や、慰問の手紙など110通が残されています。



▲田中行三さん書簡集



▲1年生の時の作品



▲武田倫江さん

武田倫江さんが描いたクレヨン画

武田倫江さん（長浜市南高田町出身）は、長浜国民学校3年生だった昭和20年（1945）、終戦を迎えます。

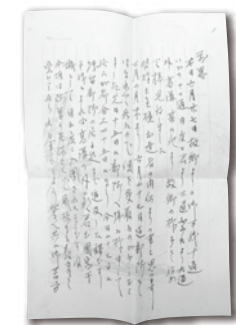
戦時中、子どもたちには戦争を賛美する絵本などが提供され、その影響を受けた絵が盛んに描かれました。学校のおえかきの時間に飛行機の絵を描くと二重丸がもらえたそうです。写真は、国民学校1年生の頃の武田倫江さんです。

大通寺での盛大な町葬

川村惣藤次さん（長浜市三ツ矢町出身）は、昭和12年（1937）10月11日戦死。同年12月、大通寺で執り行われた町葬の弔辞などが巻物に貼られ、大切に残されています。遺児らの作文集『社頭の感激』には、娘・晴子さんの作文が掲載され、父への想いの他に、勉強を頑張っていくことなどが書き綴られています。



▲滋賀県知事の弔辞



▲家族への手紙



▲死亡告知書

家族をつないだ軍事郵便

上口仙太郎さん（長浜市新居町出身）は、昭和17年（1942）に召集を受け、フィリピンへ出征。家族にむけて出された手紙には、農繁期の多忙さを気遣う内容が多く、戦地・フィリピンでの様子も綴られています。昭和22（1947）年に届いた死亡告知書には、3年前の昭和19年（1944）11月フィリピンレイテ島にて戦死したと記されています。

展示資料：滋賀県平和祈念館蔵 他

歴史講座① 「学徒動員と勤労奉仕作業」「あの日を忘れない」 山田秋三氏・土川 圓氏（戦争体験を語り継ぐ会）

日時 令和2年8月9日（日）午後1時30分～

会場 浅井図書館2階 視聴覚室

定員 30名（要事前申込）

受講料 500円（あざい歴史の会員は無料）

申込み 浅井歴史民俗資料館までお電話にてお申込みください。令和2年7月9日（木）午前9時から受付を開始します。

※新型コロナウイルス感染症予防のため、講座に参加される方につきましては、必ずマスクを着用されるようよろしくお願いいたします。

浅井歴史民俗資料館

〒526-0251 滋賀県長浜市大依町528（浅井文化スポーツ公園内）
TEL/FAX 0749-74-0101 E-mail:rekimin@city.nagahama.lg.jp

□開館時間／9:00～17:00（入館受付は16:30） □休館日／月曜日（但し8月10日は開館し、翌11日が休館）

□入館料／大人300円 小中学生150円（団体割引20名様以上 一般250円 小中学生130円）

※長浜市・米原市の小中学生は無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方及びその付添いの方1名は無料。（ただし、証明となる手帳等の提示が必要）



【交通アクセス】

◎JR長浜駅から車で約20分

◎北陸自動車道・長浜ICから約10分

◎湖国バス高山線で浅井三姉妹の郷下車徒歩約10分